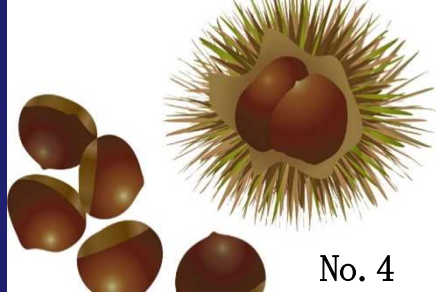


協力隊通信：美和地域

岩国市美和総合支所 農林建設課

地域おこし協力隊 沖野 修吾

TEL0827-96-1112



No. 4

前回、岸根栗の系統樹を守る町の母樹園改修計画までの経緯をご報告しました。

その改修の中で土壌の改良に堆肥を入れることで改善していきたいと詳細を報告いたしました。市場には完熟堆肥という製品化された資材もあるのですが、昨今環境保全や資源循環の大切さが注目、評価されており、母樹園の改修計画でも環境や手段があれば取り入れて実施したいと考えました。

■ きっかけは牧場長

- ・ 自分が地域おこし協力隊として着任しているのは岩国市美和総合支所の農林建設課です。
- ・ 農林建設課の課長の席の壁面に和牛のこよみが貼っており、「和牛のカレンダー！ かわいいですね！」と課内で話をしたら...「課長は、牧場長だから」と教えてもらいました。
- ・ 調べたら岩国市には「らんかん高原放牧場」という施設があり、旧本郷村で畜産振興、土地利用の高度化を目的に昭和52年頃から始められた公共牧場で、1次産業に携わる方々の手助けとして農繁期に家畜を預かるなど預託育成を続けている施設だということを知りました。

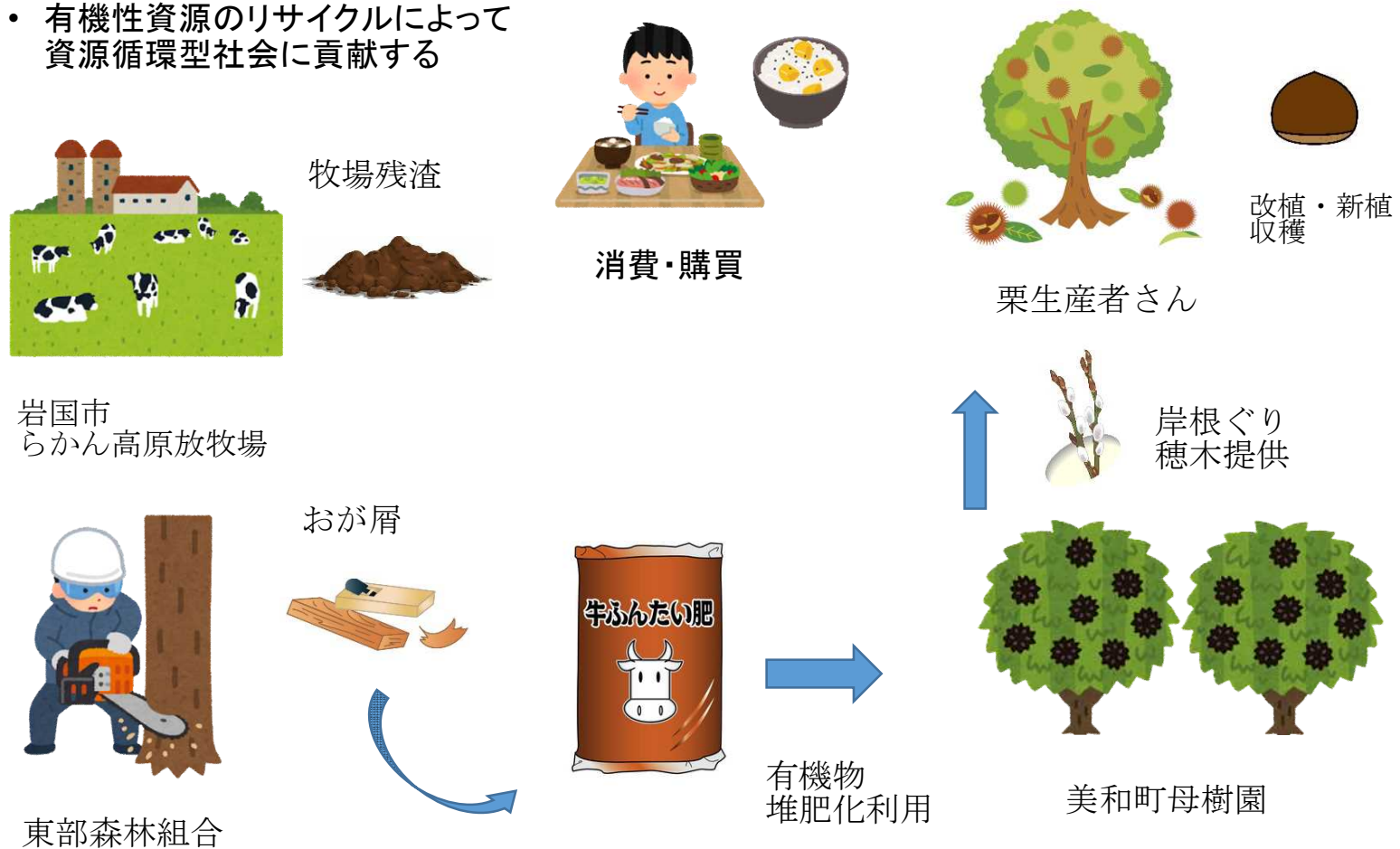
■ らんかん高原放牧場

- ・ 羅漢山(標高1,109m)の山頂にかけて広がるらんかん高原は、遠く瀬戸内海まで大パノラマが広がり景色が大変良い所です。
広さ42haのらんかん高原放牧場には約40頭の和牛(黒毛和種)が放牧されており、のどかな牧歌的風景を楽しめます。
- ・ 放牧場の牛の寝床はおが屑が使用されています。そのおが屑の一部を東部森林組合から無償提供していただいております、県内木材の端材を放牧場で有効利用することができています。
- ・ その使用済みおが屑と牛の残渣を堆肥化し、母樹園で有効利用できないかと考えました。約8aに対して2tの施肥計画です。



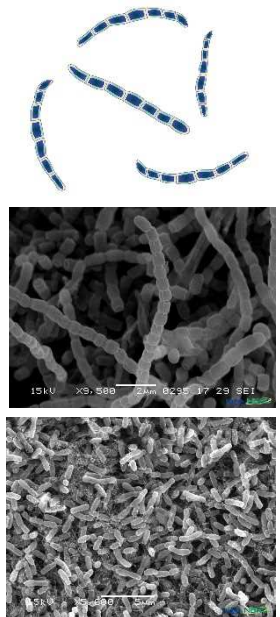
資源循環型農業

- 有機性資源のリサイクルによって資源循環型社会に貢献する



残渣の堆肥化

- 残渣はそのまま畑に入れると農作物の病気や障害の原因になります。その理由は菌によるところが大きいようです。それを改善する為、良い菌が繁殖し悪い菌を上回るまで発酵・熟成させた状態にします。
- 未熟堆肥
- 有機物が分解途中で、窒素飢餓が起こりやすい。糸状菌の増殖が多いため、病気や障害を受けやすい。
- 中熟堆肥
- 有機物がある程度分解され、糸状菌と病気に抵抗力がある放射菌が混在している状態。
- 完熟堆肥
- 有機物はある程度分解され、細菌が増殖するまで微生物の移り変わりが進み、細菌、放射菌、非病原性糸状菌、病原性糸状菌など多種の微生物が混在している状態。



まずは苗木育成の市民農園で

- 今後の地域の為、12月から栗の実を保存し、苗床で発芽させることろまで育成中でした。
- それを畑に植替え、大きくしなければなりません。
- 先ず、その畑を準備する際、牛の残渣を堆肥化利用した土壌作りチャレンジを次回報告します。